

糞に成木太り早し、松林は別之木を不交、松許が吉、縦二ヶ年に貳町四方に、毎年植れば、十一年めには初年の林の内、筋宜ぐ、大木に成べきを見立、少し残し、其外は不殘伐拂、其跡に又小松を植立れば薪不絶段々伐拂ひ、縦ば三尺に一本づ、植れば貳町四方に六万本程成枝一束づ、落しても六万束也三分一不用立共大分の薪也、伐残たる筋宜分、外之木伐採、小木に成故格別盛、木も早く良材に成事也。

一松を植替る事、正月廿日頃より、二月社日前迄吉、諸木共栽替るとき、元生たるごとく、木振枝葉、杯東西に目印して堀元の如く植べし、穴を廣く掘、腸根を一通り並、土をかけ少々押付、又根を並べ土をかけ、根の窄まらぬ様に、又東西の不違様に植、大木は鳥居木を立、夫に釣上置、立根を不折よふにすべし、松は下にだる肥入、土を細かに碎き、大麥粒を一抓み入て植れば枯ることなし、夏木は春葉の不出前か、秋葉落て植替べし、冬木は夏葉茂りたる時、四五月比栽替て吉、菓樹は上之十五日に植れば菓多し、始て熟する時、兩手にて取べし、重ねて實を能結ぶ必ず一箇二箇不可取、人取たる後鳥多く取物也、椿は六月十五日より廿日頃まで栽吉、根に牛房の様なる處有、伐て焼て可植、枝を伐ことは惡し、杉は差木よし、是は若生を長七八寸許に切り、先をそぎ付割懸、大麥一粒挿み四月中旬差べし、併し今年芽許りは惡し、去年芽の境際より切たるが吉、皮のまくれざる様に可差、實のなき杉吉、實の生るは生立遲し、檜も差木吉、尤大木に成ては差木は内にうろ出來安し、實生は盛生は遅けれ共、大木に成うろ以來ず、桑は地際の枝折かけ、土に埋め置、春に至りて一本より四五本宛芽を出し、實植よりよく生立物也、竹を植るは五月十五日頃吉、竹を中程より末をとめ植る事古より多し、然れ共關東の地面には、末を留ては枯ること多し、縱つきたりとも、竹の子の生る事遲し、末を切ざれば能く付て竹の子多く早く茂る、一所より枝貳本付、節の低きは雌竹也、筍多く出る、人家に藪なきは用事かけること多し、空